

令和7年度

児童発達支援事業における職員の自己評価

エルロン都府楼南

対象7名 回答6名 回収率 86%

		チェック項目	はい	どちらともいえない/わからない	いいえ	青字=意見・反省 黒字=補足
環境体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6 (100)			敷地、建物とも十分な広さを確保しています
	②	職員の配置数は適切であるか	5 (83)	1 (17)		人数がもう少し増えたら子どもを見やすくなる 基準より多く配置しているつもりですが、それでも介助の必要なお子様への対応は十分でない事も多く発生します。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか、また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	5 (83)	1 (17)		お子様にわかりやすいように、各部屋の入り口に名称プレートを貼っています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5 (83)	1 (17)		屋内は毎日終業時に清掃しています
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	3 (50)	3 (50)		毎月業務改善会議をもち、PDCAサイクルに沿っています
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5 (83)	1 (17)		評価アンケートへのご協力に感謝いたします。ご意見を生かせるよう鋭意努力いたします
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4 (67)	2 (33)		可能な限りの改善点を模索しながらお伝えしていきたいと存じます
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3 (50)	3 (50)		義務化されている事業が最優先となります
	⑨	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保しているか	4 (67)	2 (33)		スケジュールを調整しながら、研修を受けられるようにしています
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	5 (83)	1 (17)		カンファレンスを確実に行っていきます
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5 (83)	1 (17)		アセスメントツールを利用することのお子様への負担を顧慮しながら使用しています

	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5 (83)	1 (17)		児童発達支援ガイドラインに沿って利用のお子様ならびに保護者への支援から保育所や幼稚園との連携まで、お子様各々に必要な支援を選択しています
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	5 (83)	1 (17)		対応するお子様に必要なポイントをおさえながら日々の工夫を重ねています
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4 (67)	2 (33)		児童発達支援管理責任者が提案し、スタッフ間で検討しています
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4 (67)	2 (33)		無理なく楽しく効果的なプログラムを多種多様な試みを加えながら実施しています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	5 (83)	1 (17)		集団活動はお子様の特性や現状に合わせて組み分けをし、個別活動も適切な課題を選択しています
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5 (83)	1 (17)		支援開始前に朝礼をし、途中から加わるパート職員には、当日のリーダーが伝えています
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6 (100)			終礼の時間をとり、各スタッフからの報告を共有しています
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6 (100)			保護者にお渡しする連絡帳だけでなく、特記すべきことは日誌に記入しています
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6 (100)			お迎えの際に貴重な時間をいただきますが、お子様の変化やご希望をお聞きしています
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6 (100)			基本的には児童発達支援管理責任者が出席しますが、担当者を帯同させることもあります。
	㉒	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	3 (50)	3 (50)		お問い合わせに対応しながら情報共有し、支援に活かしています
	㉓	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4 (67)	2 (33)		当事業所と保育所または幼稚園を併用なさるお子様の場合、送迎の際などに情報共有して相互理解を進め活かしています
	㉔	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	3 (50)	3 (50)		保護者のご希望に沿って、情報提供をしています
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		6 (100)		研修を受ける機会はありませんが、助言を受けることはあります

	②6	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		3 (50)	3 (50)	夏からの感染症、特にインフルエンザの大流行にあつて、感染拡大を防止する観点からあえて交流をしていません
	②7	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか	1 (17)	3 (50)	2 (33)	当事業の地域の自立支援協議会に子ども部会はなく機会がありません
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6 (100)			お迎えの際に貴重な時間をいただきますが、お子様のご様子や展望をお伝えできています
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援(相談対応・質疑応答・ペアレント・トレーニング等)を行っているか	5 (83)	1 (17)		定期的なペアレントトレーニングの形はとっていませんが、お困りのことや質問には丁寧に対応しています
	③0	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明かを行っているか	5 (83)	1 (17)		契約時に説明し開示しています
	③1	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6 (100)			児童発達支援計画の説明は丁寧に行い、ご質問にも対応しています
保護者への説明責任等	③2	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5 (83)	1 (17)		毎日保護者様と対面しているので、お困りごとにはすぐに対応できています
	③3	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		3 (50)	3 (50)	父母の会を求められる声がなく、むしろご多忙で、個々に対応することを望まれるので実現していません
	③4	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6 (100)			利用のお子様また保護者様からのご連絡すべてに即応しています
	③5	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6 (100)			毎月<エルロン通信>を発行し、郵便にてお届けしています
	③6	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6 (100)			書庫、事務室を施錠でき、建物全体はセコムとの契約をしています
	③7	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6 (100)			お子様とのやり取りはそれぞれに工夫しています。また保護者様とは毎日のお迎えで対面でき、対話しています
	③8	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2 (33)	3 (50)	1 (17)	ご招待するイベントはありませんが、見学は受け入れています

非常時等の対応	③⑨	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6 (100)			それぞれのマニュアルを作成し、職員には告知していつでも見ることができるようにしています
	④⑩	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6 (100)			年に2回の災害学習と避難訓練を実施しています
	④⑪	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	6 (100)			服薬管理はお申し出に沿っています 発作等の情報はできる限り把握しています
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6 (100)			これまでアレルギーを持つお子様の事例がありません
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5 (83)	1 (17)		実際に事業所内で起こったヒヤリハット等の記録を事例集として編纂し開示しています
	④⑭	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6 (100)			毎年11月を定期的研修月として、職員のシフトに合わせ、数回に分けて実施しています
	④⑮	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6 (100)			契約の際に身体拘束の基本概念をお伝えし、了承をいただいています
就業環境	④⑯	支援や業務上の迷い・疑問などが生じたとき、相談し解決できる態勢が整っているか	5 (83)	1 (17)		児童発達支援管理責任者だけでなく、リーダーや役員にも相談できるような態勢をとっています
	④⑰	過労働、過業務で支援に影響がおこることはないか	6 (100)			過重労働を課して支援に支障が出ないように注意、配慮しています

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 エルロン都府楼南		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 15 日		～ 令和 8年 1 月 15 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和 8年 1 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11 月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	敷地が広く庭に遊具が多く置くことができ、利用者が走り回るスペースを確保できている。毎日お庭遊びの時間を取りいれている。部屋数も多いので、目的に合った使用ができる。	特に夏休みなどの学校休業日は、放課後等デイサービスと利用時間が重なるので、それぞれにスペースを確保し適度な間隔をとっている。	玄関をオートキーにし、窓の開閉管理を徹底して安全を図っている
2	専門職による支援を行っている STによる言語訓練 柔道整復師による側弯、猫背、巻き肩、関節強化等の施術	STも整復施術も個室を確保して実施している。施術は体に触れるので、他のスタッフが立ち合いをする。	STは言語獲得の臨界期までに適切な課題を提示して楽しく訓練できるようにしている。施術は利用者を正しく診断し、最も効果的で利用者が気持ち良いと感じる、無理のないステップアップを可能にしている

3	運動学習をメインに据え、体全体、手先指先を楽しみながら動かすことによって脳への刺激をしっかりと与え、発達の促進を図っている	利用者に合った教材を用意し、無理なくステップアップできるように企画している	備えている運動器具をもっと活用できるよう活動や遊びを企画する。
---	---	---------------------------------------	---------------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	古民家一戸建ての事業所であり、死角が多い。ドアや障子等を開放すると回遊できて利用者はとても喜ぶが、ぶつかり事案も起こりやすい。	死角ができないように監視カメラを10台以上配置し、危険を察知できるようにしている。	かくれんぼや追いかっこが始まると、見守りのスタッフを増やし、角ごとに立って利用者に注意を促す。
2	弊所はご自宅までのお送りをせず、保護者様のお迎えを待つシステムにしている。	このことは保護者様の利便性に反しているようで、見学等で施設を評価していただいても、お送りせずお迎えをお願いすることが意図に合わないようで、利用を逡巡されることが多い。	送迎に関してはメリット、デメリットが交錯しており、現状がベストであるとは思っていない。が、保護者と利用者の様子について語り合う機会が多く持てて、職員の労務負担も考慮すると難しい。お送りがどうしても必要という事例については、可能になるように特例規定を設けている。
3	ペアレントトレーニングを定期的には実施できていない	ご希望がないことで始める方向に一歩踏み出すことをしていない。	こまめにお困りごとや悩みの解決に応じているが、体系的なペアレントトレーニングに結びつくように方向づける